

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社 サンメディカル		
事業所名	グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット		
所在地	〒020-0823 岩手県盛岡市門1丁目15-27		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりとの関わりを大切に、感謝の気持ちを言葉で伝え、ゆったりと笑って過ごせるよう支援している。弊社サンメディカルは「その人のやりたいを叶える」と、社内ビジョンを掲げ、利用者様やご家族様、社員が共に幸せになれるよう取り組んでいる。福祉用具のレンタル、販売をしており、ご利用者様の生活状況に合わせた福祉用具、衛生用品の提供ができる。健康管理では口腔ケアや排便コントロールに力を入れている。食事については食量量好みに応じ柔軟に対応している。水分チェックを行い好みのものを用意し飲んでいただいている。電解水素水の医療機器を設置し調理で使用し減塩に取り組んだり、飲用して頂いている。町内会の行事、草取りにも参加している。避難訓練には、町内会の方も参加している。すぐそばに大きな公園もあり静かな住宅地という事もあり、散歩に出掛けたり、近所の方と会話する機会もある。ホーム前の畑では野菜を育て収穫を楽しみ、一緒に調理を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺はアパートの多い住宅地で、近くには公園もあり、系列の有料老人ホームやデイサービスが隣接している。「私らしさをみつけて、みとめて」とする介護の基本を謳った理念の下で、「施設理念に基づいたチームづくり」を手始めに、四半期ごとの達成目標を定め、日々取り組むことにより、職員の意識の高揚を図りながら、利用者へ安心を提供し、心に寄り添った介護を実践する事業所を目指している。町内会に加入し、コロナ禍前は積極的に地域活動にも参加していたが、現在は交流が難しい状況にある。そのため運営推進会議委員の力を借り、地域住民との繋がりを大切に協力体制の構築に努めている。母体が福祉用具のレンタルや販売をしていることもあり、利用者への福祉用具、衛生用品等は、質の良い物の提供が出来る。健康面でも、訪問看護ステーション派遣の看護師、月2回の医師による訪問診療もあり、また口腔ケア等にも力を入れ、医療連携が図られている。食事は、色彩豊かで盛り付け等にも工夫し、利用者が楽しみながら食事が出来るように工夫している。全職員、利用者一人一人に寄り添い、笑って過ごせる、質の高いケアを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域、家族を意識した表現の理念にしており、事務所内に掲示し、都度意識付けをしている。	「私らしさをみつめて、みつめて」とする介護の基本を謳った理念は、事業所開設時に定められ、今日でも事業所運営の基本となっている。より信頼される施設を目指し、2年程前から「施設理念に基づいたチームづくり」を手始めに、四半期ごとの達成目標を定め、日々取り組むことにより、職員の意識の高揚を図りながら、利用者に安心を提供し、心に寄り添った介護を実践する事業所を目指している。	介護や職員意識の在り方について、事業所一丸となって探求し続けています。この取り組みの目標年次を目前とし、これまでの成果を基礎に、それを継承しさらに深化させるための方法や課題に事業所一丸となって正面から向き合っていかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板、会報を頂き、野菜や古新聞を頂いている。コロナ感染防止のため、地域行事参加は自粛中。	コロナ禍前は、傾聴ボランティアが来訪したり、地域の運動会や伝統さんさの披露があったりと、地域の方々と敷居のないお付き合いをしていた。コロナ禍によりそれも無くなり、利用者は少し寂しい思いでいるが、運営推進会議で散歩ルートでの休憩場所の提供を発信したことにより、庭を提供をいただくことができた等、地域との繋がりの継続を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーの利用。運営推進会議に参加して頂いて、認知症ケアの報告を行っている。入居の相談、問い合わせにに応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面開催とし、町内、地域包括、ご家族の代表に、活動報告、利用者様の様子報告をし助言を受けている。	コロナ禍のため、書面会議が続いている。町内会長、民生委員、事業所の大家、地域包括支援センター、利用者家族で構成され、居宅管理指導の薬剤師も同席している。委員からは、毎回意見、感想等が寄せられ、議事録として取りまとめ、整理している。毎回、尿もち等の事故・ヒヤリハットの事例があった際には全て報告しているが、薬のセットから始まる五段階の手順を励行することにより「誤薬」に関するヒヤリハットは発生していない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	盛岡市や包括支援センターへ運営推進会議録の提出をし、多様な面での連携を図れるように取り組んでいる。	市の担当は、介護保険課事業所指定係となっている。コロナ禍のため、運営上の相談は事前予約によるオンラインが原則となっているため、以前ほどの行き来はなくなっている。それでも、運営推進会議議事録を持参したりして、面談の機会は確保している。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念にそって夜間の戸締り以外の施錠をすることなく、ご本人の気持ちを受け入れる支援を実施している。ご利用者様、職員の位置を徹底している。身体拘束防止委員会の会議や勉強会をしている。	両ユニット合せて5台の介護ロボットを導入して、居室での利用者の危険な動きを把握し職員の介助の補助に活用している。身体拘束に関する研修は、「勉強会」の年間計画の一つのテーマとし、職員を講師に「スピーチロック」などを中心に行っている。管理者は、職員の認知症に対する理解不足や職員間の関係性の程度を「スピーチロック」の要因として捉え、現状では無くなったものの、事業所の環境が変われば、再発しないとも限らないとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会はオンラインで参加し、自施設での勉強会など認知症の理解に努め、ご本人を受け入れることを基本としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	受け入れることから始める基本姿勢や理念にそって支援し、振り返りをしている。研修や勉強会に参加し職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には目的、入院した場合、看取り、料金について不安な点に時間をかけて、その都度説明をしている。料金の変更があった場合には重要事項説明書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内玄関に意見投書箱を設置している。面会時やサービス計画説明時にご家族の要望を確認している。ご利用者様の变化に伴う対応に気配りしている。	両ユニットの受診形態の違いから、家族の来訪頻度は異なるが、食事や口腔ケアについて要望のある家族を除き、特に話される家族はいない。管理者は、利用者が日々の生活で苦痛な点はないかと目配りもしているが、高齢によりこれといったことを話す方はいない。一人、ビールを呑みたいと希望する「だいち」の利用者には、かかりつけ医に相談してノンアルコールのビールを用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、及び、連絡ノートを活用しサービス計画、業務等に関して意見交換をしている。新人面談、希望面談を実施し提案や意見を聞く機会を設けている。	管理者は何でも相談できる職場環境づくりに意を用いており、リーダーの職員はそれが皆の安心感に繋がっているとしている。意見・提言は、会議、面談時や連絡ノートへの記載に限らず、何時でも出来ている。居室担当制は採用せず、「分担制」として事業所運営の企画・実践に関する九つのテーマをそれぞれ複数の職員で取り組む仕組みを作り、月末に振り返りながら課題を見つけ、次へ繋げて行けるようにし、職員の発意による運営改善に併せ、人材の育成等に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の役割や責任を持って行えるように、また、認知症ケアの不安を解決できるよう助言している。勤務表の公平を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験年数、研修歴などを参考に、希望を聞きながら外部研修を受けられるようにしている。また、弊社の取組みとして部下育成の研修や施設内での勉強会を活発に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため社内外の研修はオンラインをメインに、参加し交流する機会を設けられている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人を受け入れることを一番に考慮し、生活リズムの声掛けを行い、強制することなく支援することから始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、契約、面会時など傾聴することから始めている。ご家族様の都合の良い時間に出向いて頂いたり、電話にて生活の様子のご報告をしている。		



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報、見学時の様子で、どのような支援が必要か見極めながらも、決め付けず見守りをし、出来る事、出来ない事、不安に思っている事等を職員間で共有し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを優先にし「一緒に」の声かけを行い、出来る事を手伝っていただき「ありがとう」と感謝の気持ちをお伝えし支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に支えたい旨を、契約時や必要に応じてご説明している。コロナ禍で面会を制限しているため、写真や電話を使いやり取りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を書く支援や電話でご友人やご親戚とも会話が出来よう支援している。自室には手紙や写真を飾り、馴染みを大切にしている。	利用者の高齢化により、家族が何よりの馴染みの人となっている。事業所との関係継続を考え、「来やすく話しやすい事業所の雰囲気であり、職員の表情」を大切にきて来やすい雰囲気づくりに努めたり、日々の利用者の様子を収めた写真やミニ手紙を出し、家族との関係維持に努めている。コロナ禍前はお互いユニット交流もしていたが、今はできない状況である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる事、興味がある事などに職員と一緒に関わりをもち、見守りし変化に気づき戸惑いのサインに寄り添い良い関係作りを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した時には、不安がないよう職員がお見舞いに伺っていたがコロナ禍で面会できないため、ご家族の問い合わせ等にも可能な限り支援し、ケアマネジャーや病院相談員とも様子伺いをしてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の今を探り、思いをくみ取れるよう支援にあたり、ケアカンファレンス、記録、申し送りや会議等での意見交換や情報を共有している。	どちらのユニットでも自分の意思を言葉で伝えることができるのは利用者の半数に満たない。そのため、職員は観察を大切にしながら、表情から思いを把握し、その結果を日々の記録としてケアカンファレンスノート等書き留め職員間で共有している。手伝いたい、働きたいの利用者には、作業の安全を確保できる環境を作りながら思いの実現の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャー及び相談員からの情報と、入居前にご家族に聞き取りし情報を得ている。様子に変化が見られた時にはご家族にも確認し理解に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	”いつもと違う”の気付きをする為に、一日の様子シートで日々モニタリングしている。電子記録や介護ロボットを導入し、主治医にも情報提供をしやすくしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の経過をモニタリングし柔軟に対応している。計画、評価については、ご家族、主治医、訪問看護、職員の意見を参考に半年毎に計画の見直しをしている。	利用者個々の居室担当は置かず、職員全員で支援に努めている。利用者一人一人について日々モニタリングとカンファレンスを行ない、見直しの時期が来た時には、事前に家族に利用者の様子を知らせ、要望を伺うとともに、主治医、訪問看護師、職員の意見を参考にしながら介護計画を作成している。計画は6ヵ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のモニタリング情報を職員間でアセスメントし、3ヵ月毎に計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状況に合わせ、当社の福祉用具の提供、介護保険更新手続き、病院受診、往診対応を行っている。また、当社デイサービスをバックアップ施設としている。		

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平常時は、散歩に出かけ公園の東屋で世代間交流を行ったり、買物に出かけている。花見や紅葉などのドライブを楽しんで頂いているが現在コロナ禍で自粛中。感染リスクを考慮し近隣公園での花見を楽しんだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、ご本人やご家族の希望する主治医に受診をお願いしている。その際、ホームでの記録の提供を行っている。受診対応した時には、ご家族へ必要に応じ報告している。	「だいち」は2週間に1度の訪問診療、「そら」は家族付き添いの受診としている利用者が多い。結果は家族から伺い記録に記載している。症状により、内科、眼科、皮膚科、歯科などの往診対応をしており、医療連携が図られ、利用者の体調が変化した時には、訪問看護ステーションの看護師が来てくれる等、コミュニケーションも取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、月に4回程度健康相談をしている。訪問日以外にも電話で相談し、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急搬送時には、必ず付き添い病院関係者に緊急連絡表を用いて情報提供をし、入院した場合には安心して頂けるよう密に連絡のやり取りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療連携体制及び、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご本人には、日々の生活の中で看取りの確認をし、サービス計画書に記載しご家族と共有している。訪問看護師と連携し主治医に報告している。	入居時に看取り等についての方針を伝え、利用者・家族の同意を得ている。状態の変化に応じ、その都度家族の意向を丁寧に確認しながら、これまで両ユニットで6人程の看取りを経験している。入浴設備が個浴のため、重度化の進行により介助の困難性が増した場合であっても、長年住み慣れた事業所で最期を迎えさせたいとする家族の希望があれば、それを受け止め、住み替えは行っていない。	看取りに際しても、利用者が最期まで「ゆったりと笑ってすごせる」支援を提供し、理念の実践に努めております。これからも名実ともに利用者寄り添った介護を継続していくため、現状での課題を整理し、一つ一つ改善されていかれることを期待します。

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生研修に参加したり、施設内のAEDが正常に作動しているか毎日欠かさずチェックしている。電話の側に緊急連絡表と職員連絡網を置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回デイサービスと合同避難訓練を行い消防署の指導を受けている。セCOMの火災センサー作動で地域住民に連絡が行くようになっている。水害時訓練も行っている。	年3回隣接のデイサービスと合同で訓練を行っている。夜間想定訓練や夜間水害の訓練を実施している。火災や地震発生時の避難場所は近隣の公園としているが、水害発生時に指定避難場所の公民館への移動は現実的でないため、その場合は事業所に留まることにしている。避難時の移動も考慮し、利用者全員が介護シューズを履いている。発災時の職員の招集は、連絡網を活用することを基本とし、数人が5分程度で駆けつけ可能である。備蓄として3日分の食料、自家発電機、ストーブ、反射板付きのたすきを用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄ケア、入浴介助時にはご本人の羞恥心に配慮し、言葉使いにも気をつけている。戸口に暖簾をかけて自室の空間を大切にしている。	事業所の「宣言」の一つに「高齢者の尊厳を守る」とし、「自分がやられて嫌な介助」にならないことを徹底し、例えば極力肌の露出を避けるなどしながら、その都度気付いたことを職員間で積み重ねている。利用者の呼称は「さん付け」で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話、動作などでの不安、精神状態をくみ取り傾聴し生活全般、排泄や睡眠などから体調を確認し環境を整え自ら発することが出来るよう、ゆったりとした空間作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や1日の生活リズムの予定はあるが、ご本人の希望や、ある程度お天気まかせの生活をして頂いている。起床や就寝、食事時間が個々の状態に合わせたペースになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し個々の希望に沿った髪型にしている。季節にあった衣類をご自分で選び、更衣が出来るよう整理整頓し、欲しい物の買物支援を行っている。		



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、和え方、盛り付け、テーブル拭き等の出来る事、好んで行うことを見極め、役割が持てるように支援している。	彩りを大切に、食欲が湧く楽しい食事の提供に努めている。当番の職員が週に2回買い出しに出掛け、調理の当番は冷蔵庫のストックと相談して献立を決めている。さりげない会話の中から利用者の嗜好を把握し、3ヶ月毎に献立や味付けに反映させている。「だいち」は和風、「そら」は洋風を好む傾向があり、職員と一緒にハンバーガーを買いに出掛ける利用者もいる。利用者は野菜の皮むき、盛り付け、テーブル拭き等出来る事を行っている。職員と一緒に作る煮リンゴは好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下、咀嚼状態を観察し、食材の硬さや大きさに注意を払っている。食事量、水分量を確認し摂取量を維持出来るように食品代用、嗜好を考慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の動きに合わせて、食後3回の口腔ケアを居室やホール洗面台へと声がけをしている。口腔内の観察をし磨き残しや乾燥、義歯の状態に気をつけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を確認し、主観を受け入れ見極めをしトイレに個々のオムツ類を配置し支援している。また、職員で意見を出し合い状況に合ったおむつの使用を行っている。	「一日の様子」の一覧表があり、一人一人の身体状況を記載し、排泄、食事状況、水分量、服薬、入浴等を一目で把握できるようになっている。排泄に関しても、何時間おきで、何回あったかを全職員で共有し、記入、確認をしながら、声掛け誘導をしている。排泄の一斉声掛けは勿論ない。布パンツ使用もいるが、ほとんどの利用者はリハビリパンツとパットを併用し、両ユニット合わせて6人が状況にあったオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や軽運動、食事量、水分量に心がけ便秘予防に取り組んでいる。個別の排泄パターンを把握し、不穏や腹痛、嘔吐等の観察をし訪問看護、主治医に相談し、コントロールしている。		

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 そらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の理由にそった声かけの対応をする事により、スムーズな入浴に繋がるようにしている。また、入浴剤やリンゴ湯、ゆず風呂を実施し好評を得ている。	利用者が心身をリラックスできるよう週2回の入浴を基本とし、「だいち」では朝食後の午前中の時間帯に毎日2、3人が30分程度をかけて、「そら」では午前と午後の入浴となり、一日で全員が入浴している。入浴を嫌がる利用者もいるので、個々に合わせた入浴としている。異性介助を嫌がる人はおらず、思い出話をしたり、歌をうたったりして、楽しみと癒しの時間となっている。入浴剤やリンゴ湯、ゆず湯は好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の温度、湿度、寝具の調整、個々の安眠に繋がる明かりの調節をしている。不安や寂しさのサインがある時は、職員が添い寝をしたりする事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や、処方箋コピーを個別にファイルし、症状や変化を把握し訪問看護、主治医に相談している。また薬局とも連携を強化している。特に血圧、便秘、眠剤、誤薬に注意を払い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からも聞き取りをし、個々の得意な事、趣味、出来る事等を探り、役割が持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	平常時は、日常的なホームでの外出、散歩、ドライブ、病院受診の他、ご本人、ご家族の要望で自宅等にも出かけられるよう支援しているが現在はコロナ禍で自粛中。	気候の良い時期には近傍の公園を散歩したり、桜の名所までドライブしていたが、コロナ禍に加え、この時期は冬の寒さから利用者は外出しづらい傾向がある。それでも中には、近くのスーパーでコーヒーを飲んだり、ケーキを食べに職員と出掛ける利用者もいる。利用者は、コロナ禍が早く収束し、以前のように利用者をどんどん連れ出したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお小遣いを管理はしているが、個々の力に応じて買物や病院受診時には、見守りや一部介助しながら支払いの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親戚やご友人と絵手紙等のやり取りを支援したり、ホームの電話を利用し会話を楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の歌の歌詞にちぎり絵や折り紙作品を貼り付け装飾を楽しんでいる。音楽を流すなど、ゆったりとした空間作りに取り組んでいる。	共用のホールは、天井から明かりが差し込み、明るい作りとなっている。また、ホールは食堂兼リビングになっていて、畳の敷いてある小上がりやソファコーナーも設けられている。壁面には、利用者と職員と一緒に作成した鬼のぬり絵や梅の花の絵が飾られ、季節感を感じられるよう工夫している。利用者は自分の好きな場所でゆったりと日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを楽しめる、会話を楽しめる、新聞、本をゆっくり読める、食事作りが見える位置などに気配りをし、家具やイスの移動をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物、思い出の写真、家具などを持参して頂き、ベッドや家具などの配置は、ご本人、ご家族と相談し決めている。好みのカレンダーや壁飾りをしている。	居室には、ベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、パネルヒーターが備え付けられている。利用者はテレビ、仏壇、位牌を置き、家族写真、カレンダーを飾り、自分の部屋作りをして居心地良く過ごせるようにしている。入口の暖簾は利用者の好みのもを下げ、自室の目印にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動線上に手すりを付けている。玄関には靴の履き替えがしやすいように椅子を置いている。また、自室が分かりやすくするため暖簾や表札を貼っている。全室ではないが見守りセンサーを設置し過度に訪室しないようにしている。		